

## 平成31年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

志の高いリーダーを育成する学校

「世のため人のため、世界のため」という社会貢献意識を強くもち、気品に溢れる、情操豊かな生徒を育て、その進路実現を叶える学校

めざす学校像を示す4つのキーワード

- 1 「鍛える」…生徒が互いに励ましあい支えあいながら切磋琢磨し成長できる学校
- 2 「極める」…グローバル社会で活躍できる高い学力をつける学校
- 3 「繋がる」…互いの違いを認め合う豊かな人間性を醸成する学校
- 4 「描く」…将来にわたる社会との繋がりを描き、社会的貢献できる人材を育成する学校

## 2 中期的目標

## 1 グローバル社会を生き抜く高い学力の育成

(1) 計画的に学力向上に取り組むスキームと、生徒自身が学力向上のプロセスと進捗を確認できるツールの活用。

ア 「振り返りシート」「ポートフォリオ」を活用したPDCAサイクルによる学力の向上。

イ 学力定着度を測るための指針としての全国模試の活用。

\* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:44%→2021:75%)

学力生活実態調査・全国模試等における学力レベルの維持。(各学年入学時のレベルを維持する)

(2) 教員の授業力の向上

ア 授業力向上プロジェクトチーム(JKP)を創設し、「主体的・対話的で深い学び」を推進することで読解力・思考力・表現力を育成する。

イ 生徒による授業評価の活用。教員の互見授業、研究授業を含めた校内研修の推進。外部者への授業公開。

\* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(すべての項目で各年度とも前年度より3%ずつ毎年向上)

(3) 泉陽プレミアム(課外講習・補習)・泉陽プレミアム+(3年進学講習)の組織的な実施。

ア 各教科・進路指導部・教務部が連携した、課外講習・補習の学年ごとの講習の更なる充実。

\* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:86%→2021:85%超維持)

(4) 自学自習力の育成と自習環境整備

ア 学習室の整備と生徒への自習室活用方法の周知徹底。

\* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:74%→2021:80%)

## 2 高い志をはぐくみ、すべての生徒の進路実現をめざす

(1) 生徒に自らの将来像を描く力を育成し、モチベーションの高揚を図るキャリア教育の充実。

ア 社会で活躍している卒業生や第一線で活躍している人材による講話の充実。

\* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:87%→2021:85%超維持)

(2) チーム泉陽による生徒支援体制の確立。

ア 高大接続プロジェクトチーム(KSP)を創設し、入試問題・入試動向の研究と全国模試の分析を実施する。統合ICTを活用した情報の共有化。

イ KSPによる進学指導能力向上のための模試・学力生活実態調査の結果分析会の充実。

\* 生徒・保護者向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:生徒83%・保護者87%→2021:85%超維持)

\* 現役で国公立大学に合格する生徒の在籍者数に対する割合(H30:32.4%→2021:40%)

ウ SC・SSW等の外部人材の活用による教育相談体制の充実。迅速な生徒情報の共有化。

\* 総欠席日数を前年度比10%ずつ減少させる。(H30:4764日→2021:3480日)

(3) 読書活動を推進し幅広い教養を育成する。

ア 朝読や授業での、学校推薦図書「泉陽の500冊」の活用による読書習慣の確立。

\* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:52%→2021:70%)

## 3 人としての豊かな見識と情操を育てる

(1) リーダーシップ、パートナーシップ、協力協働の社会的精神の醸成。

ア 「部活動の在り方に関するガイドライン」に沿った部活動の持続と学習時間の保障。

\* 部活動参加率90%超を維持しながら基礎学力の向上をめざす。(学力生活実態調査における学力・学習平均レベルA3に)

イ 「自主的な学校行事」の促進。

\* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:96%→2021:90%超維持)

ウ 堺市と連携した、清掃活動・ボランティア活動の推進。

\* 「一部活動一社会奉仕運動」の実現。

(2) 「道徳教育推進教師」を中心とした道徳教育の充実による、豊かな人権感覚・望ましい生活態度・社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成。

ア 教育活動全体を通じた人権感覚の醸成。

\* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:76%→2021:80%)

イ 「遅刻ゼロ」運動、「自分からあいさつ」の推進。

\* 遅刻総数を前年度比10%ずつ減少させる。(H30:1658回→2021:1210回)

\* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:89%→2021:90%)

ウ 多様性を育み、論理的にものごとを考えて自分の考えを的確に伝えることのできる力の育成。

\* 生徒向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:65%→2021:80%)

## 4 チーム泉陽として課題解決にあたる教員集団の確立

(1) 学校の教育課題に対して全員で取り組む雰囲気醸成。

\* 教職員向け学校教育自己診断における関連項目の肯定的回答率の向上。(H30:61%→2021:80%)

(2) 広報活動の充実

\* 学校説明会をさらに充実させて参加者数を維持する。(H30:1665人→2021:1500人超維持)

(3) 質の向上・平準化による業務の効率化。

\* 教職員の時間外労働を前年度より減少させる。(H30:35時間10分→2021:30時間未満)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和元年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>【学習活動等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は授業力向上プロジェクトチームを立ち上げ、教員相互の授業見学や教員研修等を行い教員の授業力向上に取り組んだ。また、授業アンケート後の振り返りシートで自己の課題を設定し授業改善に取り組んだ。「振り返りシートを活用し学力の定着度の確認や向上に向けた改善に取り組んでいる。」の教員の肯定的回答は昨年度より15.5%上昇し、90.5%となった。</li> <li>・一方で、「自分の考えをまとめたり、発表する授業を実施している」に対する肯定的回答は教員では66.7%、生徒では55.6%と学習に関する項目の平均値より教員生徒とも約20%低い。「総合的な探究の時間」も含めて、生徒の深い学びにつながる授業について学校全体で取り組む必要がある。</li> </ul> <p>【進路指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導に関する肯定的回答は保護者90.8%、生徒86.9%、教員84.5%と高く、進路に関する意識の高さが伺える結果となった。</li> <li>・一方で「社会で活躍するリーダーから学ぶ機会を提供している」の教員の肯定的回答が65.1%で、進路に関する項目に中で特に低い数値となった。進学セミナーや講演内容の工夫も必要であるが、1年生の就職セミナーが自己診断後の1月末実施で、このアンケートに反映されないことも影響していると思われる。同じ項目の生徒の肯定的回答は85.5%と高い。</li> </ul> <p>【生活指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度から生徒指導部を生活指導部に名称変更し、生活全般に関わる未然防止指導に力を入れた。「あいさつやマナーを守る指導を行い、社会人としてマナーを守る態度を育てようとしている」の肯定的回答が、保護者93.0%、生徒90.7%と高い数値を示したことで一定の成果をあげることが出来た。</li> <li>・また、今年度よりSSWを導入しチームによる生徒支援体制を見直したことで、「いじめに対する指導体制」についての教員の肯定的回答が昨年度の71.9%から82.5%と10%以上増加し、生徒86.1%、保護者86.9%とともに高い数値となった。</li> </ul> <p>【保健指導等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「保健に対する情報を提供している」の教員の肯定的回答は100%であるのに対して、保護者は82.0%と昨年度より5.2%減少した。情報提供の内容や方法についてさらに工夫が必要である。</li> <li>・また、「清掃が行き届いている」の肯定的回答は生徒・教員とも昨年度より増加しているが、生徒51.1%、教員66.7%と保健指導に関する項目の中では1番低い。施設・設備の老朽化の影響も考えられるので、府の関係部署とさらに調整する必要がある。</li> </ul> <p>【自主活動等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Senyo Style のモットーである「部活動や生徒会活動など自主的な力を伸ばしていく教育活動に力を入れている」の肯定的回答は、生徒92.3%、保護者96.0%、教員92.1%と高い値となった。この値を持続可能にするためには働き方改革を意識した、教職員の負担軽減や業務の平準化が必要である。</li> <li>・一方で、「読書習慣」に関する肯定的回答は生徒・保護者・教員とも昨年度より5%以上減少し生徒45.8%、保護者81.7%、教員77.8%となった。令和2年度末策定予定の「第4次大阪府子ども読書活動推進計画」に先駆けて、校内で意見交換しながら対策を講じる必要がある。</li> </ul>	<p>第1回（5/31）</p> <p>○平成31年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目先の受験だけでなく、目的や長期展望を持たせてあげるような指導もお願いしたい。</li> <li>・先生方が生徒にどれだけ多くの気づきやきっかけを与えてくれるかで、成果が期待される。</li> <li>・大学進学だけでなく大学卒業後の人生についても指導していただきたい。</li> <li>・受け身打破、過保護撲滅などの教育方針に共感する。生活力、人生力をつける指導をしていただきたい。</li> <li>・日本社会全体に高大接続改革が進んでいる。泉陽高校は其中で生徒の内面的なサポートに着手するなど新たな一歩を打ち出したと理解した。</li> </ul> <p>第2回（10/25）</p> <p>○授業見学について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の授業で扱っていた遺伝子の働きについては静止画で理解することは難しい。解説も含めた動画が出回っているのでぜひ利用してほしい。</li> <li>・英会話の能力を向上させることが強く求められている。生徒が学習の見通しをたてることが出来るように工夫することで、生徒の授業に取り組む姿勢が異なってくる。</li> </ul> <p>○学校経営計画の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上プロジェクトチームの取組みは丁寧に実施され、テーマも分かりやすく絞りこまれている。</li> <li>・高大接続プロジェクトチームでの取組みのうち、「大学入試英語提供システム」に対する準備も2年前から行っているということだが、先生方に上手く伝えられたか、今後評価されるかどうか。</li> <li>・教員相互の授業見学後のアンケート項目に、その授業を参観して自身がどう変革したかを記入できる項目があれば、さらに活発な公開授業週間になると思う。</li> </ul> <p>第3回（2/14）</p> <p>○平成31年度学校評価および学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・読書習慣を向上させるために、授業や進路指導についてに関わる点について触れて、図書を推薦するとよいのではないかと。新着本についての紹介も一斉メールなどで紹介する方法も加えてはどうか。</li> <li>・高校生の読書の総量は確かに減っているだろう。読書に関心を持たせるためにも図書館のレイアウトなどを工夫するのはどうか。</li> <li>・高校生の生活は学習や部活動など忙しく、余裕がないところがある。自由に考え行動できる時間を与え、高校生活を見直すきっかけを見つけるようにすると泉陽生はさらに変化するのではないかと。</li> <li>・中学校の進路学習は相当なボリュームで行っている。高校1年生の時期に中学校時の進路学習を振り返らせた上で、高校生として進路学習をスタートするとよいのではないかと。</li> </ul>

## 府立泉陽高等学校

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 グローバル社会を生き抜く高い学力を育成する	(1) 学力向上の進捗を確認できるツールの活用  (2) 教員の授業力の向上  (3) 泉陽プレミアム・プレミアム+の組織的な実施  (4) 自習環境の整備	(1) ア 「振り返りシート」「ポートフォリオ」を活用した PDCA サイクルによる学力の向上。 イ 学力定着度を測るための指針としての全国模試の活用。  (2) ア JKP を活用して「主体的・対話的で深い学び」の在り方について研究し、授業で実践する。 イ・授業アンケートで高い評価を得ている教員による示範授業を実施する。 ・全教員が互見授業を年2回実施し、観察シートを活用した本人へのフィードバックを行う。 ・各教科での研究授業だけでなく、教科を超えたテーマ (ICT、AL、座学、実技) による研究授業を実施する。  (3) ア・教科・学年・学校全体としての組織的に課外講習・補習を実施する。 ・各教科で最終目標を設定した上で、授業以外に必要な内容を講習として設定する。  (4) ア 学習室 (図書館を含めて) を整備し校内で自習可能な環境を保証するとともに、さらなる活用に向けた生徒への啓発を行う。	(1) アイ 生徒向け自己診断「振り返りシート」「ポートフォリオ」きちんと活用している」を60%に。  (2) ア 生徒向け自己診断「自分の考えをまとめたり発表する機会が多い」H30:59%を60%以上に。 イ 生徒向け自己診断「社会に有為な人材を育成しようとしている」82%、「学力向上、自主活動の充実、気品ある生活態度の育成は実現されている」76%、「進捗や難易度が適切な授業が多い」85%、「教材や教え方に様々な工夫をしている先生が多い」82% (それぞれ H30 年度) の 80%超維持。  (3) ア 生徒向け自己診断「講習は役立っている」85%超の維持。  (4) ア・生徒向け自己診断「休日の学習室の開放は役立っている」H30:74%を80%に。	(1) アイ 生徒向け自己診断振り返りシートを見直し、「考査や模試の結果を踏まえ次の学習に活かしている」が78.1%に上昇した。(◎)  (2) ア 生徒向け自己診断「自分の考えをまとめたり発表する機会が多い」は55.6%に減少した。(△) イ 生徒向け自己診断「社会に有為な人材を育成しようとしている」82%、「学力向上、自主活動の充実、気品ある生活態度の育成は実現されている」86%、「進捗や難易度が適切な授業が多い」86%、「教材や教え方に様々な工夫をしている先生が多い」82%と80%超を維持できた。(○)  (3) ア 生徒向け自己診断「講習は役立っている」は83.6%と85%を維持できなかったが教育産業のデータ分析によると学習の定着率は上昇している。(△)  (4) ア・生徒向け自己診断「休日の学習室の開放は役立っている」は個別指導を学習室で行ったこともあり、73.1%と昨年とほぼ同数だった。(○)
2 高い志をばぐみ、すべての生徒の進路実現をめざす	(1) 将来像を描く力の育成  (2) チーム泉陽による生徒支援体制の確立  (3) 読書活動の推進	(1) ア 生徒のロールモデルとなる卒業生や社会の第一線で活躍している人材による講話を拡大して実施する。  (2) ア・KSP による入試問題研究・入試動向研究。 ・KSP を活用して全国模試の分析と・統合 ICT を活用して情報を共有する。 イ 教科での分析と合わせて業者に頼らない教職員研修を実施して情報の共有化と教員の進路指導能力の向上を図る。 ウ SC・SSW 等の外部人材の活用による教育相談体制の充実と生徒支援のための各種研修の実施。  (3) ア 朝読や授業で学校推薦図書「泉陽の500冊」を活用するなど、アプローチの仕方を工夫して生徒の意欲の向上を図る。	(1) ア 生徒向け自己診断「進路指導は将来の進路や生き方について考える上で役に立つ」82%、「社会で活躍するリーダーの話聞くことは有意義である」87% (それぞれ H30 年度) 80%超の維持。  (2) アイ・現役国公立大学合格者の在籍者に対する割合の前年比増。(H30 32.4%) ・自己診断「各種説明会や大学の見学会は進路を選択する上で役に立つ」生徒90%、保護者97%の90%超維持。 ウ 総欠席数の前年度比10%減少。(H30:4764日)  (3) ア 生徒向け自己診断「読書する習慣がある」H30度52%を55%に。	(1) ア 生徒向け自己診断「進路指導は将来の進路や生き方について考える上で役に立つ」81.2%、「社会で活躍するリーダーの話聞くことは有意義である」85.5%と80%超を維持できた。(○)  (2) アイ・現役国公立大学合格者の在籍者に対する割合は前年より増加した。(R1:34.0%) (○) ・自己診断「各種説明会や大学の見学会は進路を選択する上で役に立つ」生徒90.3%、保護者94.5%で維持できた。(○) ウ 総欠席数は前年度比10.9%減少した。R1:4249日 (昨年度4764日) (◎)  (3) ア 生徒向け自己診断「読書する習慣がある」は45.8%に減少した。(△)
3 人としての豊かな見識と情操を育てる	(1) 協力協働の社会的精神の育成  (2) 社会のリーダーにふさわしい感性と情操の育成	(1) ア 進学校にふさわしい学力保障を前提に、部活動に打ち込める環境づくりに努める。 イ 「自主的な学校行事」が行えるよう、学校行事に対する生徒の自主的関与をさらに深める工夫を行う。 ウ 実績のない部活動に参加を呼びかけるなど、部活動ごとのボランティア活動を推進する。  (2) ア・各学年2回以上人権HRを実施する。 ・道徳教育推進教師を中心に可能な教科・科目で、人権をテーマとした体験学習を実施する。 イ・「遅刻ゼロ」運動と全校統一の指導を行うことにより遅刻を減少させる。 ・「自分からあいさつ」を推奨するため、教職員が率先してあいさつを行う。 ・清掃活動の徹底により校内の美化に努める。 ウ・行事等の自主運営などさまざまな機会を活用し、きちんと人の話を聞くことのできる力、自分の考えを適切に相手に伝えることのできる力の育成に努める。	(1) ア 生徒向け自己診断「学習・部活動の両立ができています」H30 年度70%の維持。 イ 生徒向け自己診断「文化祭・体育祭は生徒の力で自主的に運営されている」(H30:96%) の90%超の維持。 ウ 部活動1部1つ以上のボランティア活動の実施。  (2) ア 生徒向け自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」H30:76%を80%に。 イ・遅刻総数前年度比10%減少 (H30:1658回) ・生徒向け自己診断「あいさつやマナーを守る指導を行い、モラルを守る態度を育てようとしている」H30:89%を90%に。 ・生徒向け自己診断「本校は清掃活動が行き届いていて清潔である」H30:47%を50%に。 ウ 生徒向け自己診断「論理的にもの考える力、自分の考えを的確に伝える力が身についた」H30:65%を68%に。	(1) ア 生徒向け自己診断「学習・部活動の両立ができています」は72.6%に上昇した。(◎) イ 生徒向け自己診断「文化祭・体育祭は生徒の力で自主的に運営されている」は94.2%で90%超を維持できた。(○) ウ 新たに堺警察とも連携し、部活動1部1つ以上のボランティア活動を実施した。(○)  (2) ア 生徒向け自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」は80%に上昇した。(◎) イ・遅刻総数は1797回。昨年度は1658回でほぼ同数。(△) ・生徒向け自己診断「あいさつやマナーを守る指導を行い、モラルを守る態度を育てようとしている」の項目は90.7%に上昇した。(◎) ・生徒向け自己診断「本校は清掃活動が行き届いていて清潔である」の項目は51.1%に上昇。(◎) ウ 生徒向け自己診断「論理的にもの考える力、自分の考えを的確に伝える力が身についた」の項目は71%と大きく上昇した。(◎)
4 にあたる教員集団の確立	(1) 全員で取り組む雰囲気醸成  (2) 広報活動の充実  (3) 質の向上・平準化による業務の効率化	(1) ア 進学校にふさわしい学力保障を前提に、部活動に打ち込める環境づくりに努める。  (2) ア パンフレット・ポスター・広報用 DVD を作成し、全教員で広報活動を充実させる。  (3) ア 働き方改革に基づき、学校閉庁日・全校一斉退庁日を設置する。「部活動の在り方に関する方針」に基づき部活動における長時間勤務を縮減する。	(1) ア 教職員向け自己診断「学校の教育活動について、教職員が日常的に話し合っている」(H30:61%を65%に)  (2) ア 学校説明会の参加者数の維持。(H30:1665人、1500人超の維持)  (3) ア 教職員の時間外労働を前年度より減少させる。(H30:35時間10分)	(1) ア 教職員向け自己診断「学校の教育活動について、教職員が日常的に話し合っている」は57.1%に減少した。(△)  (2) ア 学校説明会の参加者数は2236人で昨年度より大きく増加した。(◎)  (3) ア 教職員の時間外勤務時間の平均は31.5時間で3時間以上減少した。(◎)